

宝亀山 相応寺（本堂・総門・山門・鐘楼・回廊）



本堂（第105号）



総門（第106号）



山門（第107号）



鐘楼（第108号）



回廊（第109号）

<input type="checkbox"/> 認定番号	第105～109号	<input type="checkbox"/> 認定年月日	令和6年2月14日
<input type="checkbox"/> 所在地	千種区城山町1丁目47		
<input type="checkbox"/> 建築年	本堂：寛永20年 総門・山門・鐘楼：寛永年間 回廊：昭和9年		
<input type="checkbox"/> 構造・階数	木造		
<input type="checkbox"/> 概要	<p>多くの歴史的建造物が残る城山・覚王山地区を代表する、由緒ある寺院。尾張藩初代藩主・徳川義直が亡き母・相応院殿を弔うため建立した。</p> <p>寛永20年の建立時の建造物として本堂（唐破風向拝付・棧瓦葺）、寛永年間の建造物として総門（薬医門・本瓦葺）、山門（八脚門・軒唐破風付・入母屋造・棧瓦葺）、鐘楼（入母屋造・棧瓦葺・袴腰付）が残る。本堂と総門、山門の扁額は義直の直筆であり、数多くの寺宝を有する。</p> <p>元々の所在地は東区山口町であったが、昭和9年に千種区城山地区の丘陵地へ移築。その際に京都の清水寺を模した舞台が本堂前に造られたという。この舞台は戦災・伊勢湾台風により現存しないが、同じく昭和9年の本堂等移築時に建築された回廊が残されている。</p>		